

27年度 入学式を挙



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人
発行日 偶数月末日
発行部 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



大学のシンボルマーク

晴れの新生たち

平成二十七年の日本歯科大学の入学式は四月初旬、生命歯学部と新潟生命歯学部で挙行された。あわせて大学院の両研究科、東京短大、新潟短大の入学式が行われた。

生命歯学部
生命歯学部の部は、四月九日に生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。
定刻午後一時三十分、高橋孝幸庶務部長より開式が宣せられ、学年主任の今井敏夫教授による生命歯学部入学生、編入学生への点呼が行われた。科委員の菊谷武教授による大学院生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。中原泉学長、羽村章生、命歯学部長、八重垣健生、大学院生命歯学研究科



歯科大学生としての心構えを説く中原泉学長(4月7日・新潟)

新潟生命歯学部
新潟生命歯学部の部は、四月七日に新潟生命歯学部講堂において挙行された。
定刻午後一時三十分、羽下憲善事務部長より開式が宣せられ、学年主任の佐藤聡教授による入学生への点呼、ならびに研究科長の新海航一教授による大学院新潟生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。
中原泉学長、関本恒夫、新潟生命歯学部長、新潟生命歯学部生命歯学研究科長が訓辞を述べ(要旨二面)、新潟生命歯学部入学生を代表して鳥山由



点呼に応じて起立する新生たち(4月9日・東京)

長が訓辞を述べた(要旨二面)。生命歯学部入学生を代表して渡辺尚子さん、大学院入学生を代表して中山医学大学出身の呉亞欣さんが宣誓。ついで列席の法人役員、役職者が紹介され、午後二時二十分に閉式した。

東京短期大学
東京短期大学の入学式は、四月九日に生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。定刻午前十一時三十分、印出光宏短大事務長の司会により開式が宣せられ、歯科衛生学専攻と歯科技工学科の入学生、専攻科入学生(歯科技工専攻・総合技工専攻・歯科衛生学専攻)の点呼が行われた。小口春久学長が訓辞を述べ(要旨二面)、ついで来賓祝辞で羽村章生命歯学部長は、「短期大学と生命歯学部の学生と一緒に図書館や食堂、教室も学部と短大が一緒に使っているの、キャンパス内で私に会うことも

あるだろう。どうかそのときは、声をかけていたきたい、歯科技工学科、歯科衛生学専攻とも開校以来、全員が国家試験に合格している。このことは君たちにはプレッシャーになるかもしれないが、笑顔の中に秘めた闘志がないと全員が合格するのは厳しい。お互いに刺激しあって、頑張っていたらいい。十一月に行われる富士見祭で学部の学生と一緒に行事をしてくれることを楽しみにしている。これからの活躍を期待している」と祝辞を述べた。

つづいて、三代冬彦附属病院長は「医療系の大学が他と違うのは、入学した時点で将来の目標が明確なことだ。その一番最初の目標が国家試験に受かることだが、あくまで途中の目標でゴールではない。学生の間に新しい知識と技術を身につけるといふ心構えを育み、卒業後もそれを生かしていただきたい」と祝辞を述べた。

おわりに新生を代表して歯科技工学科の中倉舞衣さんが宣誓。列席の来賓、役職者、教員が紹介され、十一時十分閉式した。

新潟短期大学
新潟短期大学の入学式は、四月七日午前十一時三十分から新潟生命歯学部講堂で挙行された。須貝将紀短大事務部長が開式を宣し、歯科衛生学専攻入学生と専攻科入学生の

小林寛 名誉教授 春の叙勲うく
本学名誉教授の小林寛先生は、平成二十七年春の叙勲で、瑞宝中綬章を受章された。
小林名誉教授は、昭和五十六年七月から平成十七年八月まで二十四年



新生代表による宣誓(上・東京、下・新潟)



新潟・正面駐車場に充電ステーション
本学新潟生命歯学部では、正面駐車場にEV車の

(電気自動車)用の充電ステーションを設置した。午前七時から午後十時まで一回二時間を限度に使用可能。充電ステーションは新潟市中央区内には二十か所余あるが、県内の医療機関では初めての設置となった。

HAMAURA FESTIVAL 2015
浜浦祭 第44回
6月13日(土) 14日(日)
公開講座 6月14日(日) 10:00-12:00
Comedy live show
我が家
学生による無料歯科相談
スタンプラリー
イベント
オープンキャンパス

▼知識を知恵に▲

新入生諸君にとっては昔のアイドルになるだろう。ジャニーズのSMAP、その中で一番の人氣があるキムタク、木村拓哉が子役のオーディションを受けた。審査員が食べ物は何が好きなの？と聞いたそうだ。そうしたら「お母さんの作ってくれたカレーです」と言っ

中原 泉 学長 入学式訓辞



歯科医師のライセンスは一生通用する。国家試験に合格しなければ、本学に入学した意味がない

い。新入生諸君はこの数年間、沢山の知識を蓄えることで過ごしてきた。もっと端的に言えば、知識の程度を示す偏差値が諸君にとって最も大切なものだった。この数年間それが全てだったと言っ

ば、全員が歯科医師のライセンスを取得する。歯科医師の資格として同じであり、それまでのランキングや偏差値にみられる優劣は一切表に出ない。もう少し強

い。それが比べて諸君の場合、歯科医師のライセンスを取得すれば、おむね就職率は百パーセントだろう。このライセンスは一生通用するから、働く意思がある限りは、いわゆる世の中での失業はない。

学部はないのではない。私は、最も学生が勉強している学部だと感じている。それでも今年の国家試験の合格率は全体で六十三パーセント、三千人が受けて千人が不合格だった。私は司法試験並みの難しさと言っているが、それは決して大げさではないと思う。

が。本学も諸君に歯科医師のライセンスを取ってもらわなければ、大学としての存在意義がなくなる。本学では、この学生はライセンスまでたどり着けるだろうか、を出来るだけ早く見極めたいと思

にも進路変更をお勧めすることになる。ブルブルと低空飛行でいき、最後の一番難しい卒業試験のところで落ちてしまおう、その時に

重ねて言うと、私たちは基礎的学力のない人、やる気のない人たちを一生懸命引っ張っている。他のとは考えていない。他の学生諸君を指導するだけで精一杯だ。やる気のな

足りないとこを補充しあっているからこそ、社会生活が成り立っている。これからは、先輩やときには後輩から学ぶことが多々あるだろう。

識は膨大な量で、授業を受けるだけで全てを補うことは困難である。不足している部分は自分で勉強して補うしかない。受動的な学習ではなくて、常に積極性をもって能動的な学習をすることが必要である。

歯学部 部長 訓辞

生命歯学部 部長 羽村 章



生労働大臣の免許を受けなければならぬ」と言われている。そして第十一条一項によ

また五年生の一年間は附属病院で実際の患者さんの診療にあたる。附属病院に通院されている多くの患者さんは、学生の臨床実習を受け入れてく

るための心構えはできているだろうか。本学の実習や授業は非常に多く、内容も濃いため自由な時間はない。特に三年生からは、非常に忙しくなる。新入生は一年生のうちに自主的に先

みなさんが六年後、編入生は五年後にそれぞれに診療してほしくないと

三番目は態度である。多くの知識をもち優れた技能で患者さんに対面しても、みなさんの態度を患者さんが見て、あなたに診療してほしくないと

▼生涯のライセンス▲

が好きと言ったのではない。また「ママの……」ではなく、「お母さんの作ってくれた」と答えた。それが審査員の胸に響いて、一発で合格したという。この話はジャ

いとりたい。諸君は、高校時代の偏差値にのみついていても何の役にも立たない。歯科大学に入学した諸君には新たな評価が待っている。端的にいうと六年後に歯科医師国家試験がある。これを諸君は目標として受験をする。国家試験の最低合格ラインを六十点とすると、九十点や七十点であらうと関係なく、ライ

厚生労働省の発表によれば、二〇一一年の四年制大学卒業生のうち、正規に雇用された人は七十パーセントだった。また正社員として就職した七十パーセントのうち三年以内に三十二パーセントが離職している。だから大学を卒業しても、半分以上が正規の職に就けないか、三年間で失業するという辛い体験をして

新入生諸君には、オリエンテーションのときに時間割を渡されるが、一週間の中で空き時間は一つもない。月曜日から金曜日まで全ての時間が埋まっている。諸君の場合、大学で一日に七時間四十五分勉強にいらしていることとなる。それだけで総務省のいう倍の時間となり、そのほかに自習時間がある。特に五年生になれば一日に十時間、六年生では国家試験直前なので、十数時間くらいは当たり前になる。本学に限らず、大学の中で歯学部ほど勉強する

みなさんは歯科医師になるための道をめざして本学に入学してきた。歯科医師という資格は歯科医師法で規定されている。第一条には、「歯科医師は歯科医療及び保健指導を掌ることによつて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、以て国民の健康な生活を確保するものとする」とある。みなさんは国民のためになる仕事を志した。この目標に向かっていることを常に忘れないでほしい。第二条には「歯科医師になる」としては「歯科医師国家試験に合格し、厚

新入生諸君は本日今から歯科医師への第一歩を踏み出した。一般の大学では卒業後の職業に多くは選択肢があるが、みなさんは全員が歯科医師をめざすことになる。歯科医師になる強い意志、揺るぎない信念をもち続けて、立派な歯科医師になつてほしいと献体された篤志家のご遺体を用いて、そのために遺体を提供してくださった方々へ

新入生諸君は本日今から歯科医師への第一歩を踏み出した。一般の大学では卒業後の職業に多くは選択肢があるが、みなさんは全員が歯科医師をめざすことになる。歯科医師になる強い意志、揺るぎない信念をもち続けて、立派な歯科医師になつてほしいと献体された篤志家のご遺体を用いて、そのために遺体を提供してくださった方々へ

新入生諸君は本日今から歯科医師への第一歩を踏み出した。一般の大学では卒業後の職業に多くは選択肢があるが、みなさんは全員が歯科医師をめざすことになる。歯科医師になる強い意志、揺るぎない信念をもち続けて、立派な歯科医師になつてほしいと献体された篤志家のご遺体を用いて、そのために遺体を提供してくださった方々へ

諸君は、国民にとって大切な存在である。ぜひひ社会のニーズに応えられる歯科医師をめざしていただきたい。みなさんには学習計画書であるシラバスが配付される。このシラバスには各学年ごと、各科目ごとに細かく到達目標が掲げられ、一つづつ到達していくことが求められる。その到達目標は三つに分かれている。知識と技能と態度で、この三領域からシラバスは構成されている。現代において、歯科医学に必要な知

識は膨大な量で、授業を受けるだけで全てを補うことは困難である。不足している部分は自分で勉強して補うしかない。受動的な学習ではなくて、常に積極性をもって能動的な学習をすることが必要である。技能は実習で習得される。新潟病院で実際の患者さんに医療行為を行う者さんに医療行為を行う実習は最も重要な実習であり、その基礎となるシミュレーターを用いた臨床基礎実習の到達目標をクリアして医療行為を裏付ける確かな知識を持つた学生だけが臨床実習に進むことができる。

（4月7日）

短期大学学長 訓辞

東京短期大学学長

小口 春久

本日入学されたみなさんは、大学受験の重圧から解放され、これからの大学生活に大きな夢をいだき、胸がときめいてのことだろう。

日本歯科大学の建学の精神は、自主独立である。高等学校までは生徒だったが、今日からは学生である。学生は受身であってはならない。自分の力で積極的に学問の世界を切り開くことが要求される。大学に入学したからには自己開発型で問題解決型の勉強を行っていく必要がある。日常の歯科臨床では教科書に書いてない、誰も教えてくれないこともたくさんある。自ら考え、熟慮の上、実践することが必要

となる。そのためには、幅広い知識、広い視野、鋭い洞察力、深い研究心、溢れる好奇心、卓越した技術が大切になる。希望に胸を膨らませているみなさんに、私の所信の一端を述べてお祝いの言葉にしたい。

高等教育としての大学教育は二つの目的がある。一つは一般教育で、いわゆる教養科目を



小口学長：いつも笑顔忘れず仲間を大切に



新入生代表による力強い宣誓(4月9日)

含み人間形成を深めていく重要な教科である。もう一つは専門教育で、一人前の高度職業人を育てるために基礎教育が必要である。ハーバード大学のヘンリー・レゼブティ教授は、一般教育には三つのH、humane humanity, humor, すなわち謙虚さ、人間性、それにユーモアが重要であると述べている。

自分の知らない世界の大きさ、深さに気付くことにより、おのずから諸君は謙虚になるはずだ。人間性をどのようにして培うのか、人との出会いと発見に感動し、額に汗を流して行動することによって人間性が育っていく。感動するためには、ピカピカの感受性が必要で、行動するにはバイタリティが必要である。それができるのは青春だ。人との出会いは同世代、同時代だけを意味するものではない。時空を越えた人との出会いこそ大切なのだ。多くの個性

的な人生を生きた先達が国を越えて時を越えて、君たちを待っている。大君たちは時空を越えた人と学とは時空を越えた人と学との真剣な付き合いを通して自己を高めていくことである。そのような活動を通して、人生の先輩、後輩と出会うことで、自分を見つめ直し、自己のアイデンティティを確立する場でもある。そのためには、読書も非常に重要だ。ユーモアは不慣れた緊張感を解き、とかくギスギスする人間関係や思考を癒やす潤滑油の働きをする。ユーモアには鋭い風刺と人に対する温かい思いやりが必要である。

私はこの三つのほかに、もう一つのH、すなわちハングリー精神を要求したい。みなさん、東京短期大学のキャッチフレーズは、笑顔のキャンパスライフだ。笑顔には人の心を明るくし、柔和で好意的にさせる偉大な力がある。常に笑顔で心がけている人の未来は、ポジティブで飛躍するようになる。今が楽しい、今がありがたい、今が喜ぶのである、そんな学生生活を笑顔で送っていただきたい。前途洋々たるみなさんが在学中楽しい学園生活を仲良く過ごし、卒業後にはこういう仲間になってほしいという願いを込めて、「仲間」という詩を贈りたい。

「仲間っていいもんやね それぞれの道に旅立って いろんな道に離れても いろんな道にたつても 過去をたどればひとつ みんな同じ場所に戻って くる／＼やみながら明日に向かいながらも 明日を心から楽しんで だ／＼あの人に帰って くる／＼思い出せばひとつ 仲間はずっと仲間、またみんまで会って語りあおう、学生時代、それは人生の中で最も楽しいときだ。みなさんの人生に花を咲かすことができる。努力の上で花が咲く、みなさん、それぞれ個性豊かな、潤いのある花を本学で大きく咲かせてほしい。これからみなさんが目を輝かせ、笑顔で各自の目標を達成すべく、邁進することを祈念する。(4月9日)

新潟短期大学学長 又賀 泉

みなさんの先輩である今年の卒業生たちも歯科衛生士の国家試験に全員合格した。これは大変に嬉しいことで、みなさんも三年後には歯科衛生士の国家試験に合格し、国家資格を取得されることを祈っている。国家資格を取得するのに三年間勉強しなくてはならないが、三年間という一つの言葉がある。

日本では、今年になって百メートルで九秒台が

出た。オリンピックの陸上で、三連覇した種目があるのをご存知だろうか。実は一九二八年のアムステルダムで三段跳びで織田幹雄という人が金メダルをとった。その次のロサンゼルス大会でも南部忠平が三段跳びで優勝した。そして一九三六年のベルリンで田島直人がまた金メダルをとった。三段跳びで三連覇、これは偉業だ。「三段跳び」は、正式にはトリプル・ジャンプとも言うが、英語と言うとホップ・ステップ・ジャンプ、非常に簡単だ。その当時、日本人が何故三回も優勝できたかというと、ホップ、ステップ、ジャンプと同じ距離ではない。ホップと二番目のステップは少し短く、最後のジャンプが一番長い。体力では絶対に勝てるわけがないので、そういう跳び方を日本人は考えた。

みなさんも実は三段跳びである。一年生、二年生、三年生で、ちょうど今三段跳びに入る踏切り板の前にいる。明日から踏切り板を越えるわけだが、どうぞ頑張ってください。



又賀学長：これからは充実した学生生活を



宣誓で決意を述べる新入生代表(4月7日)

大学院新潟生命歯学研究科新入生の諸君は、今日から四年間研究生活がはじまるが、心に留めておいてほしいことを三つ話したい。

第一に初志貫徹である。諸君のゴールはみな同じで、博士(歯学)の学位を取得することである。四年間の大学院生活は順風満帆ではないが、一度心に決めたからには、最後まで志をもってやり遂げていただきたい。第二に英語力と論理的

思考力の向上である。すでにグローバル化した現在、世界最先端の研究動向を知るには、専門領域における英語に精通する必要がある。最初は何と言ってもリーディングで、辞書をひきまくりながら、興味ある論文をまず訳してみるのだ。それを重ねていくと辞書をひく回数も徐々に減り、読むスピードもアップするだろう。

次の段階はライティングで、和文論文は優れた内容であっても海外の研究者が目を通すことはまずない。諸君が目指すのは学位論文を英語論文として作成し、少なくともJSTORに収録された国際学術雑誌に掲載することである。インパクトファクター付の学術雑誌

問題となるような研究があればこれは一生の誇りにはならない。みなさんが学位審査を受けるときは国内の趨勢からみて、審査がますます厳しくなっていく。他大学でもそういう傾向になっている。しかし、学問の楽しさを学び、もっと可能性をもつ歯科医師をめざすかを考えていただきたい。

大学院新入生のみなさんには、今までは全く違う新たな四年がはじまる。大きな未来が開くよう、これからの厳しく新しい挑戦への前途を祝したい。(4月9日)

生命歯学研究科長 八重垣 健

今回の大学院入学試験は私の知る限り本学で最も難しい試験だった。それを合格したのだから、大学院入学生諸君は誇りに思ってください。しかし、みなさんの前途は難関だらけであることを覚悟してほしい。今の博士号は数年前と比べ、比較にならないほど厳しく

難しかった。一昨年、文部科学省が博士論文の公表方法を改定し、本学はこれを受け、学位論文審査基準を変更した。その結果先月の卒業式では一般選抜の大学院新制度修了者十一名のうち、九名が国際学術誌、それもインパクトファクターを持つ優秀な学術誌に八名が学位論文を公表した。また僅か三年で修了した者も二名いた。今年も学位審査が厳しくなると聞いていないか、話が違ふ...と思う方はすぐに退学していただいとう。そんな学生は百有余年の歴史をもつ日本歯科大学の発展を邪魔するだけである。

生命歯学部入学生のみならず、これから六年の長きにわたって、ライセに掲載できればさらによりだろ。さらに国際学会における発表、そして海外留学を希望する諸君はヒアリングも勉強する必要がある。そして何よりも研究を遂行するには論理的思考が不可欠である。

研究を始めるにあたってはまず研究テーマを決めて、そのテーマに基づいて研究実施計画書を作成する。研究には独創性、再現性、そして臨床への貢献度が求められる。その研究テーマに関連する論文を数多く読んで、どのような点が未知なのかを分析することで独創性がある。予備実験で試行錯誤を繰り返して安定したデータを得られるように実験方法を確立することで、再現性が生ま

ンスをとるために国家試験合格をめざして勉強していく。今の歯学部では国立も私立を問わず、国家試験が最大の目標になることが当然の理である。しかし入学した今から将来大学院に入学して学問の楽しさを学び、もっと可能性をもつ歯科医師をめざすかを考えていただきたい。

大学院新入生のみなさんには、今までは全く違う新たな四年がはじまる。大きな未来が開くよう、これからの厳しく新しい挑戦への前途を祝したい。(4月9日)

大学院研究科長 訓辞

新海 航一

大学院研究科長 訓辞

新海 航一

大学院研究科長 訓辞

新海 航一

“緊急”公開フォーラム 9月6日(日) 富士見ホール

歯科と認知症

大学院入学生
平成二十七年度の日本歯科大学大学院生命歯学研究科入学生十八名、新入生十名は次の通り。
〈生命歯学研究科〉
衛生学 山道光祐
HIROMI YAGI MENDOZA
衛生学 横山知美
歯科法医学 奈良まゆ
歯科保存学 小玉裕樹
歯科補綴学Ⅰ 倉持淳子
口腔外科学 眞室仁美
口腔外科学 三木貴仁
歯科矯正学 佐藤絢香
歯科矯正学 松村嘉子
小児歯科学 鎌田弘明

歯科麻酔学 藤森翔子
歯科麻酔学 村田奈保子
歯周病学 呉 亞欣
接着歯科学 林孝太郎
臨牀口腔機能学 五十嵐公美
臨牀口腔機能学 磯田友子
臨牀口腔機能学 光岡一行
〈新潟生命歯学研究科〉
硬組織粘膜炎比較形態学 谷口 脩
機能性咬合治療学 栗田 武
口腔全身機能管理学 押切 孔
口腔全身機能管理学 関根美桜
歯周機能治療学

顎口腔全身関連治療学 阿部史彦
顎口腔全身関連治療学 後藤 翔
咬合形態機能矯正学 外山淳史
全身関連臨床検査学 渡邊美穂
全身関連臨床検査学 原 基
平成一七年度日本歯科大学生命歯学部、新潟

生命歯学部、東京短期大学、新潟短期大学の学年主任は次の通り(カッコ内数字は学年、下段は学年)
〈生命歯学部〉
(1)今井敏夫 高田清美
(2)砂田勝久 新谷明一
(3)内川喜盛 浅海利恵子
(4)佐々木裕芳 添野雄一
(5)小森 成 山瀬 勝
(6)福田雅臣 北原和樹
(7)名生幸恵

秋山麻美 岡俊哉 長谷川優 菅原佳広 阿部祐三 高田正典
富田 淳 佐藤文裕
〈新潟短期大学〉
(1)宮崎晶子 煤賀美緒
(2)三富純子 筒井紀子
(3)浅沼直樹 佐藤治美
専攻科歯科衛生学専攻
専攻科在宅歯科医療学専攻
専攻科がん関連口腔ケア学専攻
中村直樹 土田智子

専攻科歯科理工学専攻
鈴木 恵
専攻科歯科理工学専攻
鈴木 恵

本学では九月、東京の生命歯学部富士見ホールにおいて、本学校友を対象にして、「緊急」公開フォーラム「歯科と認知症」を開催する
超高齢社会の到来にともなう、認知症の人は十年後の二〇二五年には、約七百万人に増加すると推計される。現在六十五歳以上の高齢者の約四人に一人が認知症、もしくはその予備群であると言われる、厚生労働省では、本年一月「認知症施策推進総合戦略」を発表した。「新オレンジプラン」と名付けられたこの施策は、認知症の人の意思を尊重することが基本となる。住み慣れた地域での暮らしを続けることができれば、社会の実現を目指す。厚労省が関係各府省庁と共同して策定したこのオレンジプランの対象期間は、いわゆる団

▶新オレンジプランの基本的考え方◀

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

- I. 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- II. 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- III. 若年性認知症施策の強化
- IV. 認知症の人の介護者への支援
- V. 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- VI. 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- VII. 認知症の人やその家族の視点の重視

II. 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

(基本的考え方)
・容態の変化に応じて医療・介護等が有機的に連携し、適時・適切に切れ目なく提供
・早期診断・早期対応を軸とし、妄想・うつ・徘徊等の行動・心理症状(BPSD)や身体合併症等が見られても、医療機関・介護施設等での対応が固定化されないように、最もふさわしい場所で適切なサービスが提供される循環型の仕組み

- ①本人主体の医療・介護等の徹底
- ②発症予防の推進
- ③早期診断・早期対応のための体制整備
・かかりつけ医の認知症対応力向上、認知症サポート医の養成等
・歯科医師・薬剤師の認知症対応力向上
・認知症疾患医療センター等の整備
・認知症初期集中支援チームの設置

(出典:厚生労働省ホームページより抜粋)

新潟 学内にコンビニ開店

レストランも新装オープン

新潟生命歯学部では、新潟病院一階の旧「総合診療科」跡に、コンビニエンスストアを開店しました。開店を前にした三月三十日、午前八時三十分からテープカットが行われた。挨拶に立つ関本恒夫新潟生命歯



Yショップ開店のテープカット(中央・関本歯学部長)



新潟病院1階見取り図

学部長は、「本学キャンパス内にコンビニを出店することは、長年の懸念だったが、関係各位の尽力によって実現はこびととなった。入院患者さん、本学病院に来院される方、また近隣の方々にとっても便利になると思う」と述べた。
床面積約二十三坪のYショップは、平日は朝八時から夜八時まで、土日祝日は朝十時から夕方四時まで営業。また店舗に隣接して、入院・来院者、教職員などが利用できる談話室のラウンジ(約十九坪、三十席)も併せて新設した。
▼八号館一階のレストラン

訂正・本紙六二六号(平成二十七年三月三十日発行) 四、生命歯学部四年「西巻麻由里」は「西牧麻由里」、新潟生命歯学部二年「野田裕太」は「野口裕太」の誤りでしたので、お詫びして訂正いたします。

「適時・適切な医療・介護等の提供」では、早期診断・早期対応のための体制整備が必要であり、新たに「歯科医師・薬剤師の認知症対応力向上」が求められる。その点としての歯科診療所の在り方、歯科医師の認知症への理解と対応力の向上が急務となった。歯科の認知症対応力の強化は、在宅歯科医療や口腔リハビリテーション

師の認知症対応力向上が求められている。そのため、認知症健康情報拠点としての歯科診療所の在り方、歯科医師の認知症への理解と対応力の向上が急務となった。歯科の認知症対応力の強化は、在宅歯科医療や口腔リハビリテーション

本フォーラムでは、認知症の最新動向や新オレンジプランに関する専門家の解説、認知症患者の歯科治療の最新情報をパネラーによるパネルディスカッションを企画した。このフォーラムを通じて、歯科医師の認知症への理解度を深め、認知症対応力向上にむけた方向性を共有できることを趣旨としている。

歯髄細胞バンク認定医講習会日程

第1回	7月8日(水)	19:00~21:00
第2回	7月12日(日)	13:00~15:00
第3回	7月16日(木)	19:00~21:00
第4回	8月2日(日)	13:00~15:00

場所：東京・生命歯学部 九段ホール
費用：無料(名刺を当日受付にお渡しください)

日本歯科大学主催“緊急”公開フォーラム

歯科と認知症
～歯科医師の認知症対応能力の向上にむけて～
日時：9月6日(日) 9:50~16:15
場所：東京・生命歯学部 富士見ホール
費用：無料(昼食弁当も無料です)
※出席ご希望の方は、事前に、参加申込書または「氏名、都道府県名、電話番号、卒業回数、受講希望の回」を下記宛に FAXしてください。
FAX：03-3264-8399 (生命歯学部庶務部)